外部評価委員長による令和2年度博物館事業点検評価の外部評価総括

令和2年度の「博物館使命の四大要素」、すなわち「歴史と文化の継承と研究」、「歴史と文化への窓口」、「人々とともに歩む」、「やさしさと安心の確保」についての評価は、自己評価・外部評価ともにすべてがBであった。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の防止措置のため、休館や開館時間の短縮、イベントの人数制限等を余儀なくされ、大型海外展（コートールド美術館展、ボストン美術館展）についても中止することとなった。それだけでなく、学芸員の研究活動や、教育・普及活動、連携活動についても様々な支障が生じ、博物館にとってはまさに未曾有の事態を迎えた1年であった。それゆえに、例年の評価基準では評価し難いところがあり、本年度の評価については、そうした緊急事態のなかでいかに対応し、運営を行ったのかという視点も踏まえた評価となっている。

「歴史と文化の継承と研究」については、特に市民文化振興基金を運用して資料・作品の収集を充実できたことが高く評価される。また、前年度に問題となった館内環境の保全への取り組みや、コロナ禍にあっても研究活動をほぼ例年と変わりなく行った点についても高く評価する意見があった。

「歴史と文化への窓口」については、前述のように海外展が中止されたため、その代替として自主企画の特別展「つなぐ」を企画・開催したこと、会期や内容の一部を変更しながらも特別展「和のガラス展」「大阪湾の防備と台場展」、そして常設展を開催したことは高く評価される。ただし、音声ガイドシステムの導入が遅れたり、SNSでの発信が不十分だったりした点については改善が求められる。また、ポストコロナないしwithコロナの時代に向けての取り組みが今後の大きな課題である。

「人々とともに歩む」については、コロナ禍にもかかわらず、連携授業の実施は例年目標とする100回を達成し、「つなぐ」展では大学との連携も実施するなど、とりわけ博学連携の実績は高く評価される。学習支援交流員による活動、地域連携についても、厳しい条件のなかで最低限の活動はしており、総合的にはB評価ながら、その努力はA評価に限りなく近い。

「やさしさと安心の確保」については、博物館施設としてBELCA賞（長年にわたり適切に維持保全され、今後とも相当の期間にわたって維持保全されることが計画されている模範的な建築物に対する表彰）を受賞したことが何より喜ばしい。ただし、リニューアルを経てもなお老朽化対策が必要とされ、SDG’sや感染症防止対策とも関わり、建物、設備の維持管理にはなお一層の努力が求められる。

令和2年度に引き続き、令和3年度もコロナ禍は終息することはなかった。この状況が続くとすれば、博物館のあり方が根本から問われることになる。情勢を見きわめ、長期的展望をもって、市民と共生し得る博物館のあり方について検討してほしい。

外部評価を行った委員

（令和2年度　博物館協議会委員）

［協議会会長（外部評価委員長）］

藤岡　穣　　大阪大学大学院文学研究科教授：仏教美術史

［協議会副会長］

原田　正俊　　関西大学文学部教授：日本中世史

［協議会委員］

森　広樹　　神戸市立小学校教育研究会社会科部副部長（西須磨小学校長）

渡邊　研　　神戸市立中学校教育研究会社会科部長（高取台中学校長）

高尾　ひろ子　神戸市婦人団体協議会副会長

井上　優　　特定非営利活動法人こうべユースネット副理事長兼財務担当

渡邊　健　　神戸労働者福祉協議会副会長（神戸市教職員組合執行委員長）

金井　茜　　神戸市ネットモニター

戸田　清子　　奈良県立大学地域創造学部教授：日本経済史

馬渕　美帆　　神戸市外国語大学外国語学部教授：日本近世絵画史

黒田　千晴　　神戸大学国際連携推進機構国際教育総合センター准教授：比較国際教育

禰宜田　佳男　大阪府立弥生文化博物館館長：考古学

内海　芳宏　　旧居留地連絡協議会はいからプロジェクト実行委員会会長

博物館使命の四大要素

歴史と文化の継承と研究

この要素に対する博物館の自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

この要素に対する外部評価

		委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G	委員H	委員I	委員J	委員K	委員L	委員M	
		B	B	A	B	B	B	B	A	B	B	B	A	B	
この要素に含まれる事業群と評価	自己評価														
資料受入	A 優れている	A	A	A	A	B	A	B	A	A	A	A	A	A	
資料保存	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	A	
資料補修	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	B	A	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	
調査研究	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	A	B	B	

自己評価詳細

令和2年度の一年間を通して、新型コロナウイルス感染症の影響により、展覧会にかかる資料調査や各自の調査研究などについては一部制限を加えながらの実施となった。ただし、個人の研究成果については、ほぼ例年通りなされていた。今後もコロナ禍が継続する状況ならば、これらの調査研究については、今後とも課題となってくることが予測される。

このような中ではあるが、資料の受け入れ面では、館蔵コレクションに加えるべき資料が多く入手できたことは評価してよいだろう。

資料保管の点では、モニタリングと目視による作業を継続してくことが望まれる。

外部評価委員コメント

・コロナ禍の下であったが、最大限の努力と工夫があったように思う。神戸市の「知の拠点」という役割は、可能な限りで果たしていたと思う。
・資料受入：市民文化振興基金を活用して、展覧会・調査研究で活用できる資料・作品を多く入手できたことは評価できます。資料保存：前年度の評価を踏まえて、館内ゾーニングの「収蔵区域」における虫類0・菌類0の環境を目指すため、学芸員だけでなく館内の関係者全員で取り組まれ、博物館環境の改善に努められたことは高く評価できます。今後もぜひ継続していただきたい。資料補修：早期に修理資料の選定を行い計画的に実行できたこと、保存状況の定期確認での追加修理が実施できたことは高く評価できます。調査研究：新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、次年度以降の展覧会に向けた調査研究と館外資料調査活動は、制限・制約を受けるなか年度当初に掲げた課題と目標を達成されたことは高く評価できます。また、研究成果の発信では多くの分野で精力的に取り組まれ、前年度発刊を見送ることとなった『研究紀要』『館蔵品目録』についても発行できたことは評価できます。
・資料保存に関しては社会における環境変化など、イレギュラーな作業も予想される中、調査や駆除にとどまらず、今後の対応を工夫する事で、発展的な例となったことは素晴らしい事だと感じた。その他は特に意義はございません。
・資料受入について、購入金額（特に市民文化振興基金の利用実績）を具体的に記してほしい。そうでないと評価が難しい。購入や補修事業については、単年度予算では十分に対応できないことがあると思われる。難しい課題とは思うが、複数年度での対応ができるように粘り強く要求してほしい。コロナ禍という厳しい条件のなか、十分な努力をしていると評価できる。
・博物館の調査研究は、重要な業務です。しかし、近年ややもするとイベントに時間を取られて不十分になる傾向があります。学芸員の業務時のなかで調査研究をきちんと位置づけることが必要と考えます。
・コロナ禍にも関わらず、資料の受け入れが積極的に行え、収集方針をもとに受け入れが実施できたことは大いに評価でき、関係者の方々の努力のあとが伺える。自分の目で購入候補を探し出すことが困難だったことは、このようなパンデミック下では、やむを得ないことと考える。カビの発生は、資料の長期保存という点で、大変懸念される。突発的なこととはいえ、貴重な資料が多数保存されているので、今後も、継続的な観察を注意深く行って頂きたい。調査研究に関しては、コロナ禍という厳しい状況で、思うように調査ができなかったことは残念である。しかしながら、「和のガラス展」に関する調査、伊能忠敬に関する調査研究など、限られた条件下で調査を行えたことは、大いに評価できる。講演、執筆など、市民に博物館の所蔵品ならびに、神戸の歴史を知ってもらうことは、たいへん重要である。コロナ禍のなかでも、執筆33本、講演19回を行えたことに関しては、学芸員の方々の、日頃の努力の積み重ねが伺えて、たいへん評価できる。
・資料購入予算が限られる中、博物館の理念・使命に沿って新たな作品を購入されたことが評価されると考えます。また、コロナ禍で制約がある中、前年より前年度よりも多く研究成果を発信されていることは高く評価されると考えます。
・「資料保存」に関して、収蔵庫10でカビ・チャタテムシが発生したとのことで、引き続いての適切な湿度等の管理維持へのご対応を期待したい。館内関係者全員での害虫発見記録共有等の対策を評価したい。「調査研究」に関して、コロナ禍で制限が多い中でも着実に調査を実施され、また研究成果発信において学術雑誌・学会誌への投稿の多い点等は、貴館学芸員の方の優れた活動と考える。
・資料購入は、限られた予算のなかでよく努力されていると思う。収蔵庫清掃を毎週全学芸員と指導主事で実施されているとのこと。なかなかできないことを継続しておられることで、素晴らしい取り組みだと思う。このことは、参加者の連帯感を醸成すつことにも役立っているのではないだろうか。今後も継続していただきたいと思う。『研究紀要』での考古資料の資料紹介は地道な活動であり、神戸市の組織だからできる重要な調査研究であり、こうした取り組みは、今後も継続していただきたいと思う。
・コロナの影響を受けた時期はやむをえず、その中においても努力をされた点は評価できる。

博物館使命の四大要素

歴史と文化への窓口

この要素に対する博物館の自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

この要素に対する外部評価

この要素に含まれる事業群と評価	自己評価	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G	委員H	委員I	委員J	委員K	委員L	委員M	
		B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	A	A	
常設展	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	A	
特別展	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
企画展	A 優れている	A	A	A	A	B	A	B	A	A	A	A	A	A	
特別利用等	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	A	
広報	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	A	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
広聴	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ミュージアムグッズ	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	

自己評価詳細

コロナ禍による緊急事態宣言の発出などによって、特別展の中止や延期の措置を講じなければならなかったことは、博物館の日常を考える上では、非常に特異な一年であったとしても過言ではないだろう。なかでも、春季のコートールド美術館展、秋季のボストン美術館展は、リニューアルした博物館をPRするうえでも重要視していたが、その機会を逸することになった。ポストコロナを見据えた展覧会の誘致、館蔵コレクションを活かした展覧会を進めていくことで新たな機会を創出していきたい。

時期を変更して臨んだ「和のガラス展」、海外展の代替展として館蔵品の魅力を発信するための「つなぐ展」、「大阪湾の防備と台場展」は収支バランスの点では満足いく結果とならなかったが、新たな取り組みとして時間予約制やキャッシュレスなどを導入できたことは意義を認められる。

また「1. 歴史と文化の継承と研究」とも関わるが、大阪湾の防備と台場展のマイナス評価にもあるように、他機関の資料調査ができなかったのもコロナがもたらした現実であった。その意味では、調査研究に主眼を置いている博物館活動の根幹が崩れた年でもあった。

外部評価委員コメント

・常設展は、以前と比べてはるかに見やすくなっている。見学者は、間隔を置いて来館する人も多いので、展示構成のリニューアルは、そういう人たちに良い印象を与えている。ミュージアムグッズは、芸術系・現代風の物が多いように感じる。考古・歴史学ファンは、もう少し種類を見たいと思っている。

・常設展：新型コロナウイルス感染症の影響があるなか、概ね当初計画に基づいた展示が実現できており、資料の展示替えでの改善や作品・資料の魅力を伝える場を作ることができたことは評価できます。特別展：新型コロナウイルス感染症の拡大で開幕延期や開催中止なる展示会があるなか、「つなぐ」展において神戸市立博物館のコレクションや地域に伝来した文化財を通して、コロナ社会での「つながり」を考える良い機会となりました。企画展：「源平から神戸を知る」展では、神戸の魅力を再発見できる展示会であり、地元を愛する市民として大変興味あるものでありました。展示会の広報活動としてのSNS等による発信は、今後の展示会においても来場者を増やすことができる手段であると考えます。

・コロナ禍において、特別展の中止やそれに応じた対応など、通常の業務外の事などイレギュラーな事案が大変多かった事と予想される。その中において、SNSでの一般人との「つながり」は世界的に様々な対応があり、個性や瞬発力、発信力が試された一年であったと感じる。アートや歴史的な情報において、研究者や知識が深い人々以外のいわゆる向こう側の私達がどのようにアートに入りやすいか、と考えた場合、一番シンプルなのは「写真・映像・動画」等の視点から興味を持つと思う。今回のように、博物館に行く事ができなくなった生活において、来館が難しいからこそ、世界の方をターゲットと考えた場合、現在のSNSがTwitterとFacebookの2つのチョイスというのが、どうしても「窓口」という点ではつながりにくい。どうしてもこの2つのツールは、1つの記事について「説明」や「補足」が必要なSNSの代表格であるからだ。だとすると、現在一般的に利用されていて、なおかつ文字に頼らなくてもPRできる可能性の多い“Instagram”“pinterest”等が発信もしやすく運営をする方にとってもよりビジネスとしての利用（有料広告やアクションの分かりやすさ）もできると感じた。「個々のつながりを持つ」という点と「広がりを意識する」点でそれぞれにより多くのツールの使い方があるので、方向性と運営の方法など検討すればするほど、すぐに変化があると思う。

・特別展はコロナ禍により予定していた海外展が中止となったが、そのなかでも収蔵品や市内の作品による特別展を開催したことは大きな意義があった。コロナ禍にあって、コレクションページの充実が図られたことは評価できる。引き続き充実をはかり、また利用目的を限って画像のダウンロードを可能にすることについても検討してほしい。公聴について、特別展「つなぐ」期間中に花びら形の付箋を貼り付けるパネルボードを設置するなど新しい工夫があったことを評価したい。一方、アンケート回収率が低いという問題があり、今後はSNSによる回答、回答者への特典付与など、工夫を凝らしてはどうだろうか。

・コロナ禍による特別展の中止や延期はたいへん残念でした。今後コロナの流行がどうなるのかは不明ですが、館内の換気機能の再点検は必要項目と思います。

・リニューアル後の博物館をPRする機会であった、春季のコートールド美術館展、秋季のボストン美術館展、、中止になってしまったのは非常に残念に思います。準備に当たられた関係者の皆様のご尽力を思うと、極めて遺憾です。しかし、これらの特別展の中止を受けて、「つなぐ展」を開催され、また学芸員の日ごろの研究成果をもとに「和のガラス展」、「大阪湾の防備と台場展」を開催され、研究成果を発信された点は大いに評価できると考えます。また、時間予約制、キャッシュレスなど、新型コロナウイルス感染症拡大防止の新たな措置を導入され、ポストコロナを見据えた対策が実施できた点も今後に生かされる取り組みだと考えます。今回の対応を生かして、With コロナ時代の新たな博物館の運営方法について、柔軟な発想でご検討いただければと思います。

・コートールド美術館展、ボストン美術館展の開催は、リニューアルした本館のPRをするうえでも、大変重要な催しであったが、コロナ禍で中止になったことは、残念でならない。ポストコロナを見据えた博物館の有りようが、今後の課題となろう。また、開港5都市展が中止となったことも、神戸市民としては非常に残念であるが、関係各所とのコミュニケーションを築けたことは評価でき、次回の開催に向けての重要な足がかり、ベースづくりになったのではないかと考えられる。他方、「和のガラス展」「つなぐ展」などを開催できたことは幸いであった。学芸員の方々、関係者の方々の、日頃の研鑽の積み重ねの成果であると思う。開催中止などに関わるクレーム等がエスカレートしつつあることは、懸念される。SNSの利用度が増している今、当館に対する良好なイメージを発信し、市民の疑問や苦情に対しては地道で誠実な説明（回答）しかないのだろうが、こうしたことは、当事者側にとっては大変なストレスにもなり得るため、今後どのように情報発信をしていくかが課題となろう。また、アフターコロナ時代には、自宅からのアクセスが増加することが考えられる。端末でどのようなことができるのか、分かりやすいPR、インフォメーション（操作ガイドなど）の構築も求められる。

・「常設展」に関して、コレクション展示室は充実した展示が工夫されているので、総来館者数に対する入場者比率をさらに上げる工夫ができるとよいと考える。館外への広報はSNSが主体であるようだが、たとえばウェブサイトのトップページに目立つように情報を載せるスペースを設ける等は難しいであろうか。「特別展」に関して、大規模な特別展が中止となってしまったことは例のないことであったが、館蔵品を活用した企画はコレクションの厚みと学芸員の方の企画力を活かして充実したものとなっており、今後のこの方面のさらなる展開が期待できる。「広報」に関して、HPのコレクションページの登録件数を充実させたことは素晴らしいが、作品数の増加に伴い、「名品撰」の各入口から入って目的の作品を探しにくくなった印象もある。作品の分類方法等を再検討されてもよいかと考える。

・常設展では兵庫津の展示をされているが、今年度開館する県の施設との連携に期待したい。特別展については、コロナ禍のなかで、当初予定されていた展示が実施できない中、多くの特別展を企画されたことは素晴らしいことだと思う。「大阪湾の防備・・・」、行きたかったが行けなかったが、当方が関わるFacebookでは、近畿圏の広範囲からも見学し、「いい企画だった」というコメントがあったことを記憶している。

・文化への窓口を広くとらえ、他市とのちがいなどを強調する部分を補強願いたい。歴史的な品のみではなく、その説明をかたよらずに提示してゆくスタンスが高評価とした。今後も欧米博物館のレギュレーションを取り込んだ文化事業への門をあけてゆくべきである。コートールド展はコロナで特に残念であったが、今後の美術展示、あるいは、公開貯蔵品展示等による博物館への来場者を増やす試みにはとても期待したい。

博物館使命の四大要素

人々とともに歩む

この要素に対する博物館の自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

この要素に対する外部評価

この要素に含まれる事業群と評価	自己評価	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G	委員H	委員I	委員J	委員K	委員L	委員M	
		B	B	B	A	B	B	A	B	B	A	B	A	A	
普及事業	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	B	B	A	B	B	A	B	B	B	B	A	B	
博学連携	A 優れている	A	B	A	A	B	A	A	S	A	A	A	B	A	
学習支援交流員	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
地域連携・共催事業	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	B	B	A	B	B	B	B	B	A	B	B	A	

自己評価詳細

コロナ禍で、博物館の諸活動が制限されているなか、一般向け、子供向けの普及事業、博学連携など従来の取り組みについては、工夫しながら維持していた姿勢は高評価を与えてよいだろう。

昨年度の評価では、地域や大学、研究機関などとの連携が模索されるとしたが、コロナ禍のもとでは十分に果たすことができなかった。

外部評価委員コメント

・コロナ禍の現状では、活動に限界があるのは致し方ないと思われる。
・普及事業:コロナ禍で行動・活動に多くの制限・制約があるなか、感染拡大防止のための適切な対策を講じて、一般向け・子ども向け普及事業を開催されたことは高く評価します。博学連携:コロナ禍での連携授業は、学校との緊密な連携が必要であり、大変ご苦労されたことと思います。感染症対策を施して創意工夫があっての目標達成であり高く評価します。
・講座、講演を外向けに努力されている。
・地域の方に出来るだけ博物館に足を運んでもらうために、まずはこの施設をいかにして認知してもらえるかが課題である。どうしても展示を見に行くことがメインであるようになると、そこに興味がない人をターゲットにするのが難しくなる。そこで、まずは、どのような事業が求められているのか、他ではやっていないコアなファンを呼び込めるのか等、一般の人達から募集するなど、全く現在博物館と関わりのない人達の考えをしるのも大切だと思う。広報紙やHP、来館者へのアンケートなどはどうしても同じ分野の人に片寄りを感じるので、やはりSNSでの無料ツールを使って、やってほしい事や博物館のイメージなど、まずは認識を分析すると、今までと違う角度から「つながり」「歩み」が発見できると思う。
・普及事業や博学連携については、コロナ禍にあって最大限の活動をしたと評価したい。
・コロナ禍で人と人の接触が制限されるため、事業に制約があったことは理解できる。
・コロナ禍のなかでも、可能な範囲で、一般向けや、子ども向けの事業に取り組めたことは、評価できる。こうした厳しい状況は今後も続くことが考えられるので、ソシアル・ディスタンスの確保、非接触の催しなど、引き続き、感染防止のための工夫が必要であると思われる。厳しい状況下であっても、美術や音楽は、人々に喜びや感動をもたらすものである。そうしたことを念頭に、市民をはじめ、人々が安心して訪れ、鑑賞することができるよう、引き続き、さまざまな感染防止対策が望まれる。
・コロナ禍で様々な制約がある中、創意工夫されて、一般向け、子供向けの普及事業、並びに博学連携などの取り組みを継続してこられたことは、大いに評価できると考えます。今後も当面の間は、With コロナの対応を求められると思いますが、感染拡大防止の措置を取りながら、徐々にコロナ禍前の諸活動の実施状況に戻していっていただければと思います。特に学校との連携による子供たちへの普及活動は、芸術に親しむ次世代の育成という面において、極めて重要な事項だと思いますので、ぜひ活動を継続、拡充していっていただければと思います。
・「博学連携」に関して、コロナ禍にもかかわらず、工夫された上で連携授業や博物館実習等を実施されたことは高く評価したい。
・コロナ禍のなかなので、普及事業ができなかったことをマイナスで自己評価しているがやむを得ないことだと思う。しかし、100年に一度と言われるこの歴史的な「出来事」について、館のあらゆる事業に館する記録を残すことは、今の世代そして次に世代にとって意味のあることではないだろうか。
・一階部の無料オープン化が広く知られるようになった。近隣の住民からも立ち寄りやすい文化財というスタイルがよい。旧居留地の中央である美しい博物館の公開館が高く評価される。海外博物館のように、館内滞留者を増やす時間帯を延ばしていく試みも必要と感じた。

博物館使命の四大要素

やさしさと安心の確保

この要素に対する外部評価

この要素に対する博物館の自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

この要素に含まれる事業群と評価	自己評価	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G	委員H	委員I	委員J	委員K	委員L	委員M	
		B	A	A	B	B	B	A	B	B	B	B	B	A	
施設管理	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	
インフォメーション、ショップ・カフェ	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	
警備、清掃	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	A	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	A	
緊急時対応	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	

やさしさと安心の確保

自己評価詳細

建物・設備等の老朽化が進行中であり、各種点検に基づき適時、必要な修繕・更新を行った。

空調機器更新等の大規模工事に関しても予算確保を行い、長寿命化の計画的な推進を行った。

予算の制約もあり、修繕を必要とする箇所すべてに対応できていないが、最低限求められる対応を行った。

インフォメーション・ショップ等に関しては、新型コロナ感染症対策も含め、適正に業務を行った。

大規模災害、緊急対応に関しては、新型コロナ感染症対策としての展覧会の入場制限等は実施するには及ばなかったが、館内・展示室内への入場状況の確認等を円滑に行うことができた。また、特別展毎に避難誘導訓練を実施し、職員をはじめ関係者の防災意識の向上に努めた。

外部評価委員コメント

・荘厳かつ静謐、そして清潔な館内は、博物館の名にふさわしい雰囲気がある。展示における照明や音響の度合いについても配慮されているため、見学者による長時間の見学や考察を可能にしている。
・施設管理：旧横浜正金銀行時代の建築物であり、格調のある外観と内装は長く多くの市民に親しまれたものであります。神戸市民の誇りとする博物館の歴史的な価値を後世に継承するため、必要な予算を確保いただき計画的な点検・更新をしていただきたいと思います。BELCA（ベルカ）賞の受賞おめでとうございます。長年にわたり建物の維持管理に努められた皆様の成果であり、携われた方々には心よりお祝い申し上げます。インフォメーション、ショップ・カフェ：来館者に接することが大切な役割のインフォメーションスタッフ、やさしさと安心が求められます。鑑賞後の満足感・充実感や展覧会の余韻を感じるのが、ミュージアムショップとカフェであると思います。来館者と博物館を結ぶ大切な「人」と「場所」であり「時間」です。コロナ禍で窮屈な日常生活、これからも心温まり豊かさを感じられる魅力ある施設づくりをお願いします。
・人気の会社がカフェの運営となった事でより博物館を展示を見るための目的だけでなく色々な角度から来客の可能性が広がったと感じる。神戸の人がふだんから身近な存在として来館できるようなイベント等も期待したい。警備や緊急時の対応など、昨今予想できないような事態も考えられるので、より安全安心な博物館であることが期待されている。
・BELCA賞の受賞を喜びたい。ただし、長期の休館によってリニューアルを実施したにもかかわらず、なお老朽化問題を抱えていることについては、市民の理解を得にくいのではないか。
・空調機器の更新ができたようで、コロナ禍においては必要なことで評価できる。今後、入館者数の増減による館内の二酸化炭素濃度の測定など、空調機器がきちんと機能しているかの点検が必要である。
・ミュージアムショップについては、図録やグッズなど、工夫がみられる。川西英のグッズなどは、神戸市民にかなり人気があり、また、最近では、青山大介氏の鳥瞰図なども注目されているので、こうした商品の充実と、SNS、HP等でのPRも積極的に行っていくことが必要であろう。同時に、神戸の歴史のみならず、開港5都市に関する図録や書籍なども、可能な範囲で販売することも、必要ではないかと思う。
・大規模災害発生時の対応について、自己点検評価表に大地震・津波発生時の避難訓練等について記述がありませんでしたが、避難誘導計画等、既に立案しておられるようであれば、その旨、記載していただいてもよいのではないかと思いました。
・ベルカ賞受賞、おめでとうございます。このことは、館内でも周知されていることと思います。館の多様な「価値」が加わったことになるので、このことについての積極的な活用に期待します。
・コロナ対策として居留地で先導を切って体温チェック管理を徹底されていた。マスク着用等のレギュレーションを受付からていねいな指導をもってすすめられた。建物管理も徹底されている事は、工事の度に感じ入る。